

東濃農林事務所の普及活動状況

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稲 にじのきらめき栽培研修会

JA とうとの主催で、水稲品種「にじのきらめき」栽培研修会が多治見市、瑞浪市、土岐市で開催された。

近年、地球温暖化に伴う高温の影響が作物の栽培において問題視されている。「にじのきらめき」は「コシヒカリ」と同等のおいしさを持ちながら高温耐性に優れ、さらに多収・高品質な品種である。

栽培研修会では、JA とうとより肥料別の生育調査の結果をもとに収穫に向けた助言がなされた。農業普及課からは年間を通した栽培のポイントを説明し、イネカメムシの防除対策について注意喚起した。

今後も生産者や関係機関と連携し、従来の技術指導等に加えて高温にも対応した栽培の支援により安定生産につなげていく。



【栽培研修会の様子】

■水稲 新たな酒造好適米の普及拡大について

瑞浪市日吉町の農業法人において、数年前から岐阜県中山間農業研究所が育成した新たな酒造好適米の試験栽培を行ってきた。本年度は、6経営体に拡大し、約3haの栽培実証を行っている。ほとんどの経営体が今年度初めての栽培となるが、昨年度作成した栽培暦と技術支援により、順調に栽培管理が行われている。

瑞浪市日吉町に採種ほ場を設置し、本年度より本格的に種子生産を開始した。7月下旬と8月中旬にはほ場審査を実施して、異品種等の混じりがなく、種子生産に向けた栽培管理が徹底できていることを確認した。

管内6経営体において、9月上旬以降、順次収穫作業が開始されるが、刈遅れると品質が低下するため、適期に収穫できるよう刈り取りのタイミングについて指導を行い、高品質な酒造好適米の生産ができるよう支援していく。



【ほ場審査の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲 自給飼料共励会への出品について

多治見市の新規就農者が、令和5年度から稲発酵粗飼料（以下、WCSという。）の栽培を行うことにより経営面積を拡大し経営安定に繋げる取組みをしている。本年度は、自給飼料共励会への出品を予定しており、県畜産協会や畜産研究所、農業経営課と連携し草丈や茎数、重量測定など現地審査を行った。

出品圃場は、多治見市の姫町に品種の適合性確認のための実証ほとして設置しており、一部肥料切れで葉色が低下しているが、病虫害や雑草の発生も少なく、昨年より調査収量も多いなど栽培は概ね順調である。今後は、刈取後にロール状に成型・ラッピングされ、乳酸発酵を行った後に品質分析が行われる。

農業普及課では、分析結果を踏まえ畜産農家の意見も参考にしながら生産者と来年度の栽培に向けて検討を行う予定である。



【WCS 用稲の収量調査】